

陳情第1号

「川内原発20年延長運転の是非を問う県民投票の実施を願う意見書」を いちき串木野市議会から県知事・県議会へ提出を求める陳情

6月1日から7月末にかけて上記の県民投票の実施を願う署名を集めたところ、法定署名数を上回る50,290筆（川内原発20年延長を問う県民投票の会発表）が集まりました。正式な署名数は現在選挙管理委員会が確定作業中ですが、いちき串木野市では1,788筆（同会発表）でした。

今回の署名は川内原発の延長運転に賛成・反対の意思を示すものではありませんでした。県民市民が、意見を言う場を作って下さいという署名でした。

ご存じのように、川内原発1・2号機はまもなく設計寿命の40年を迎えます。そして今、さらに20年延長（60年運転）をして、使い続ける為の「審査」中です。

原発事故が福島のように起きれば私たちの生活に甚大な影響を及ぼします。川内原発をさらに20年以上使い続けるのか、それとも寿命の40年で停止するのは私たち県民の意見を聞いてほしいと考えているのです。

塩田知事は2020年6月に、選挙の際の公約で「県民投票実施」を打ち出されました。

いちき串木野市では2015年4月「市民の生活を守る避難計画がない中での川内原発再稼働に反対する緊急署名」を市民の半数以上集めました。並行して市議会では「市民の生命を守る実効性のある避難計画の確立を求める意見書」を全会一致で可決し、県知事へ送付されました。

2014年9月には市議会で「原発再稼働に地元と位置づけ、地元自治体の意見を十分に尊重し、同意を得られることを求める意見書」が可決されています。

更には2017年9月、「原発40年運転期間を守るとともに再生可能エネルギーの導入加速化を求める意見書」が可決されています。

又「原子力災害の万が一の備えとして、市民への安定ヨウ素剤の事前配布を求める意見書」等も可決されています。

せっかくの市議会の決議等が活かされていない面も多く、残念なのですが、常に市民に寄り添った行動・決議を出されている事に対して心から敬意を表します。

繰り返させて頂きますが、このまま動かして良いのか、否か、主権者の鹿児島県民に意見を聞いて欲しいのです。原則40年が目の前に迫った今、県民投票が可視化でき、最もわかりやすい意思表示の場だと考えているのです。大事故で命・暮らしを奪われるのは県民・市民ですから。

今回の20年運転延長は鹿児島の未来が問われています。県民にとって避けて通れない大きな課題だと思っています。

市民・県民が、川内原発20年延長（60年運転）について意見表明出来るチャンス・民意を表明できる場を作ってほしいのです。

以上の趣旨に基づき、陳情いたします。

令和 5 年 8 月 22 日

陳情者 住所 いちき串木野市湊町 2-180
氏名 江藤 卓朗 他 67 名